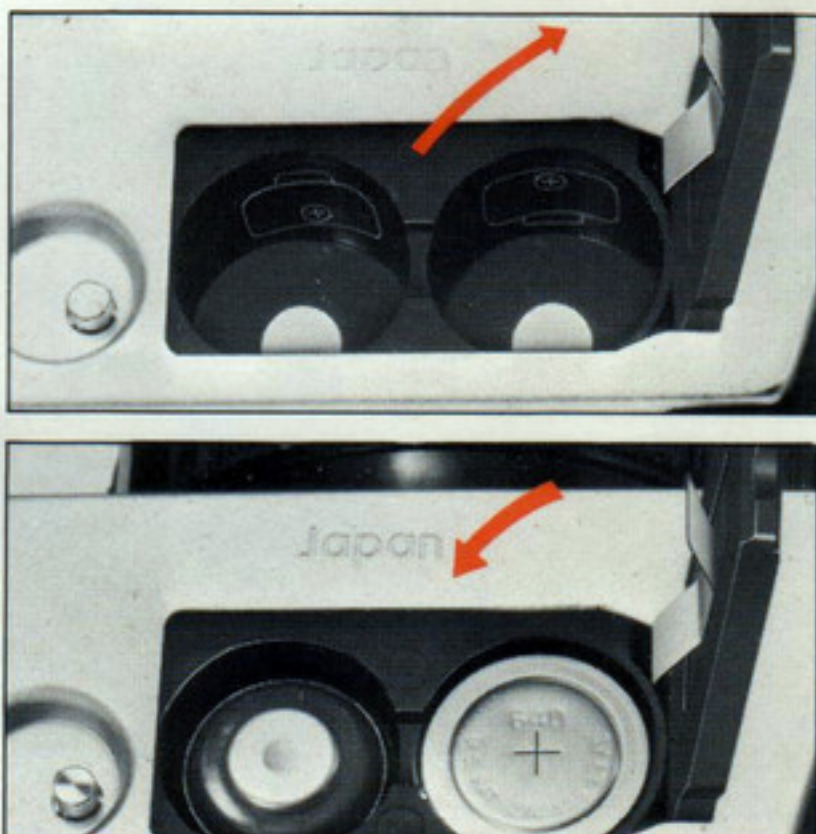


お買上げ下さいまして誠にありがとうございます。
 ミランダセンサーは正確な最新の電子シャッターを内蔵したコンパクトE Eカメラで、ユニークな露出回数補正機構と便利なオートフラッシュとフラッシュマチック機構、正確な連動距離計を備えたいちばん使いやすいカメラです。
 フィルムを入れて撮影を始める前に、カメラを実際に手にしてこの説明書をよくお読み下さって、各部の名称、機能などを充分ご理解の上でカメラをお使い下さるようお願い致します。

水銀電池を入れないとシャッターは作動しません。



水銀電池の入れ方

カメラの底にある水銀電池室のフタを開き、付属の水銀電池を2個とも電池室の表示に従って、+をまちがえないように入れて下さい。正しく入れたときはフィルム巻上げレバーを巻上げて、シャッターボタンを少し押し下げるとファインダー内に黄色ランプが点灯します。まちがって入れるとランプが点灯せずシャッターも作動しません。水銀電池は普通の使用回数の場合は約1年使用できます。寿命が切れると黄色ランプが点灯しなくなりますから新しい電池と交換して下さい。水銀電池はJ I S・H M-N型を使って下さい。

撮影を始めるまえには忘れずにレンズキャップをはずして下さい。

カメラのことをよくご存知の方も、次の文章だけはお読み下さい。

カメラの使い方早わかり

センサーはむつかしい露出をカメラが自動的に計算して決めてくれる電子シャッター式のE Eカメラですから、シャッター速度目盛も絞り目盛もありません。シャッターボタンを押すだけで誰にでも失敗なく簡単に撮影できます。またフラッシュ装置を取りつければ、フラッシュマチック機構によりフラッシュ撮影が自動的に行なわれます。撮影の順序を簡単に説明すると次のようになります。

1 撮影のための準備

- ①水銀電池を入れます
カメラの底にある電池室に+をまちがえないように2個入れます。
- ②フィルムを入れます
フィルム巻戻しクランクのあるノブを引き上げると裏フタが開きます。
- ③ASAをセットします
レンズの外側にあるリングを回してA S Aの窓に数値をセットします。

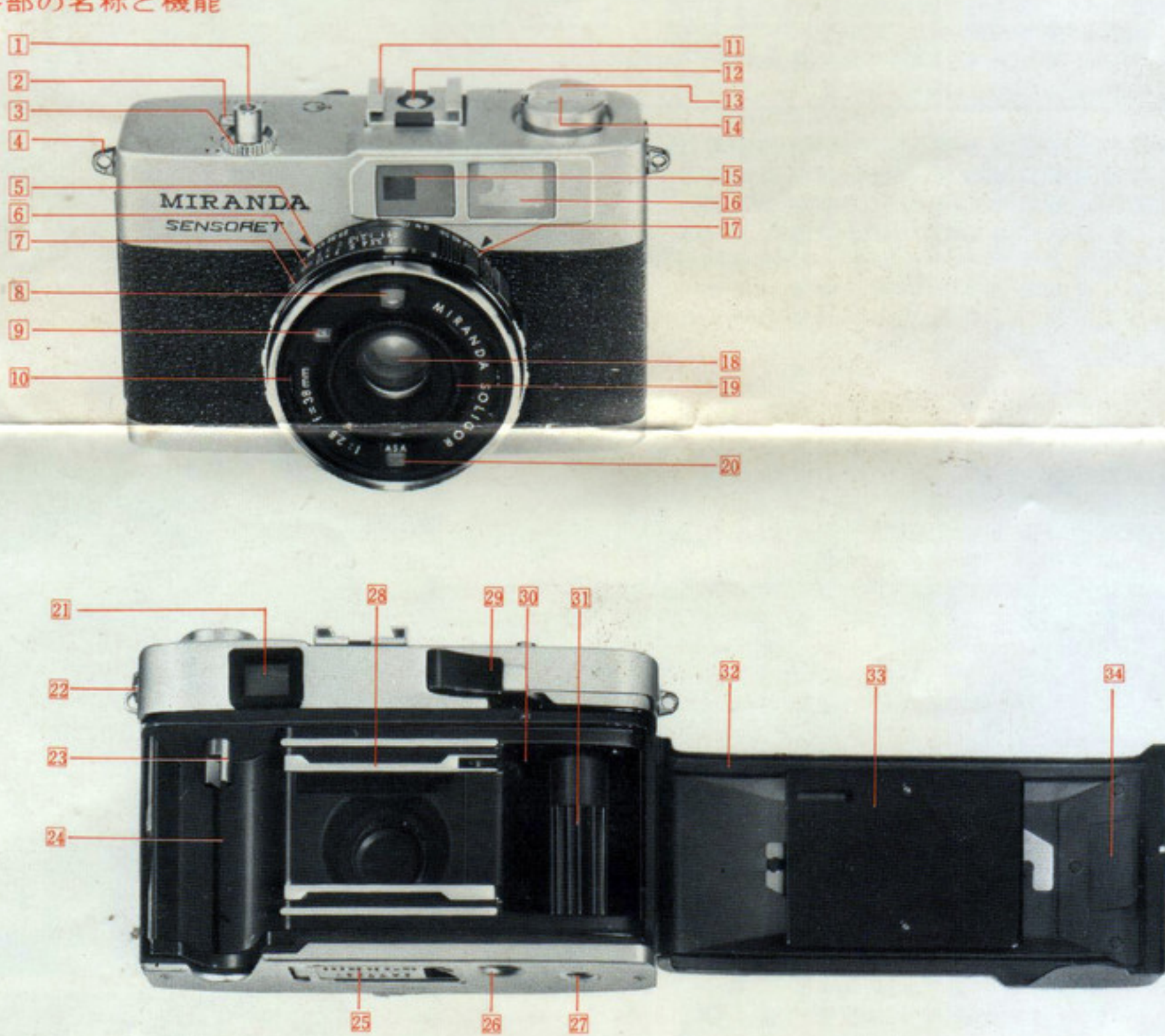
- ④露出補正マークをセットします
レンズの外側にあるツマミを動かして窓にNの文字を出します。

以上で準備は完了ですが、フラッシュ撮影の場合はストロボをアクセサリシューに取りつけてガイドナンバーをセットして下さい。

2 撮影開始

- ①フィルムを巻上げます
フィルム巻上げレバーは終りまで完全に巻上げて下さい。
 - ②構図を決めてピントを合わせます
フライトフレームの内側が撮影範囲です。ピントは中心部の連動距離計で測ります。
 - ③シャッターを押します
シャッターボタンを少し押したときに、ファインダー内に黄色ランプが点灯すれば電源はOKです。
- 以上の操作を繰り返してフィルム全部の撮影が終わったらフィルムを巻戻して下さい。

各部の名称と機能



- ①シャッターボタン
フィルムを巻上げてボタンを押すと撮影されます。
- ②フィルム枚数計
S~36までの数字がありフィルムを巻上げると1コマずつ動き、指標に撮影枚数が示されます。撮影が終わって裏フタを開くと自動的にSに戻ります。
- ③シャッターロックリング
リングの指標をLに合わせるとシャッターボタンがロックされて電池の消耗を防ぎます。
- ④ストラップ取付金具
カメラの吊り紐を取りつける金具で左右2ヶ所についています。
- ⑤ガイドナンバー【フィート】
フラッシュ撮影のときに使用するストロボのガイドナンバーを指標に合わせると、自動的に適正露出が決まります。メートルの場合のガイドナンバーは右側にあります。
- ⑥ピント調節リング
左右に回すとファインダー内の距離計が連動し、正確にピント調節ができます。
- ⑦距離目盛
被写体までの距離を示す数値で、∞【無限遠】から0.9mまでの目盛があります。
- ⑧CdS露出計受光部
被写体の明るさを測る露出計の受光窓で、光の明るさに応じて電子シャッターが動かし露出が自動的に決まります。
- ⑨露出補正表示窓
- ⑩露出補正ツマミ
ツマミを操作すると露出をN【適正】・½X・2Xの3段階に変えることができます。一般の撮影の場合は表示窓にNをセットします。
- ⑪アクセサリシュー
ストロボなどのアクセサリを取りつけるシューです。ストロボを取りつけた場合、オートフラッシュとオートフラッシュマチック機構が作動し、ファインダー内に連動範囲の絞り目盛が表示されます。
- ⑫フラッシュ直結接点
ホットシュー【直結接点】式のストロボを使用すると、シンクロコードなしで接点が直結されます。
- ⑬裏フタ開閉ノブ
このノブを引き上げると裏フタが開き、フィルム枚数計がSに戻ります。撮影中は絶対に引き上げないで下さい。
- ⑭フィルム巻戻しクランク
撮影がすべて終わったときにこのクランクを起し⑳フィルム巻戻しボタンを押して、矢印の方向に回すと、撮影済みのフィルムがバトロローネの中に巻き戻されます。
- ⑮距離計窓
被写体までの距離を測る距離計の窓です。
- ⑯ファインダー
構図を決めたりピントを合わせるための窓で、㉑ファインダー接眼部よりのぞきます。
- ⑰ガイドナンバー【メートル】
- ⑱専用ストロボを使用するときは白字の20を指標に合わせて下さい。
- ⑲レンズ F 2.8/38 ミリ
3群4枚構成のテッサー型で写角60度の広角タイプです。フィルターは49ミリを使って下さい。
- ⑲ASAフィルム感度セットリング
- ⑲ASAフィルム感度表示窓
リングを回して使用フィルムのASA感度数値を表示窓にセットします。これを忘れると正しい露出ができなくなります。
- ⑲ファインダー接眼部
ファインダーののぞき窓で右の目でのぞきます。
- ⑲フラッシュシューミナル
フラッシュ撮影のときシンクロコードを接続するソケットです。専用ストロボを使用する場合には使いません。
- ⑲バトロローネ受軸
- ⑲バトロローネ室
フィルムを入れるところです。裏フタ開閉ノブを引き上げておいて、バトロローネの軸の出ている方を下側に向けて入れます。
- ⑲水銀電池室
1.4Vの水銀電池を2ヶ入れます。水銀電池を入れないとカメラは作動しません。
- ⑲フィルム巻戻しボタン
このボタンを押し込むとスプロケットが解除されて、㉑の巻戻しクランクで撮影済みのフィルムが巻戻すことができます。
- ⑲三脚穴
カメラを三脚に取りつけるときに使用するネジで、すべての三脚に利用できます。
- ⑲フィルムガイドレール
外側の上下2本のレールの間にフィルムを入れます。内側の2本のレールはフィルムの厚さだけ低くなっています。
- ⑲フィルム巻上げレバー
フィルムを巻上げるためのレバーで、このレバーを終りまで回すとフィルムが1コマ分だけ巻上げられ、枚数計が1コマ進みます。巻上げレバーはシャッターを切らないと次の巻上げができないようになっていています。
- ⑲スプロケット
フィルムの端にある穴【パーフォレーション】にのみ合わせてフィルムを巻上げるためのギヤードです。
- ⑲RL式巻取りスプール
フィルムの先端をどれか1つのミゾの中に差し込みます。
- ⑲カメラ裏フタ
裏フタは押えるとロックされ、フィルム枚数計が動き始めます。
- ⑲フィルム圧板
フィルムをレンズの焦点位置に正しく保持するためのプレートです。キズを付けるとフィルムにもキズが付きやすから注意して下さい。
- ⑲バトロローネ押え
バトロローネを正しい位置に固定するための押え板です。

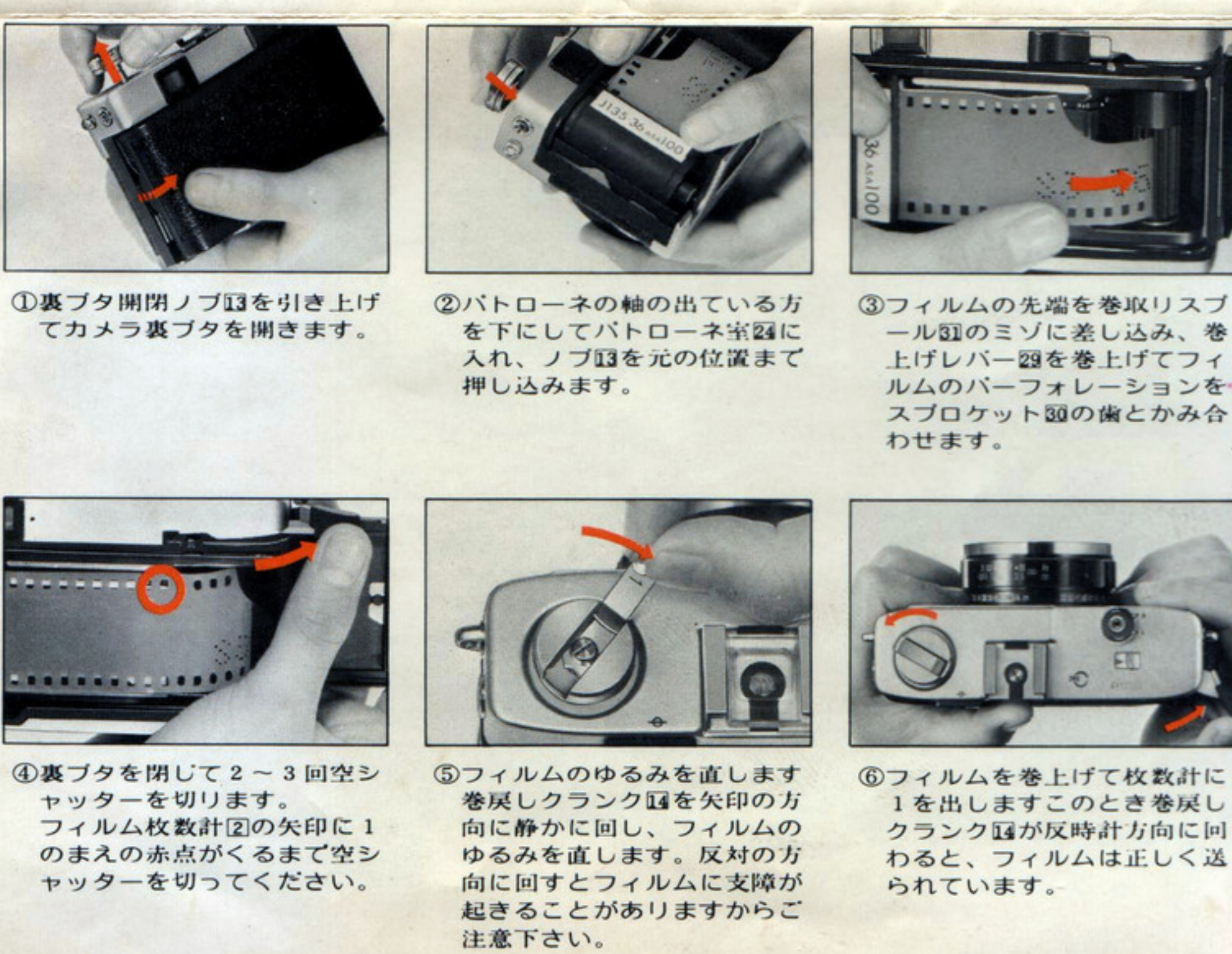
性能表

型 式	35ミリ電子シャッター式コンパクトE Eカメラ	焦点調節	一眼二重像合致式連動距離計
使用フィルム	35ミリフィルム【12枚、26枚、36枚撮り】 使用 画面サイズ24×36ミリ	ファインダー	採光窓式フライトフレーム パララックス補正マーク付 倍率0.5倍 バッテリーチェック兼スローシャッター警告黄ランプとフラッシュマチック連動赤ランプ内蔵 絞り目盛、絞り指針表示【フラッシュ装着のときのみ】
レ ン ズ	ミランダソリゴール F2.8/38ミリ 3群4枚構成 フィルターサイズ49φ	フラッシュ撮影	フラッシュマチック機構【オートフラッシュ式 シンクロX接点】 フラッシュ直結接点付 ガイドナンバー7~56【m】、23~180【ft】【フラッシュマチック連動】 絞り値、連動範囲外表示【ファインダー内】
シャッター	セイコーESF プログラム式電子シャッター 2秒~1/600秒【補正マークNのとき】ソフトリリース付 シャッターロックボタン付	フィルム巻上げ	レバー式一操作巻上げ 巻上角 120度 余偏角15度
露出調節方式	CdS露出計によるプログラム電子シャッターにより完全自動調節式 露出補正機構付【2X、N、½X】 EV2~17【補正マークNのとき】 ASA 25~800	フィルム巻戻し	クランク式 巻戻しボタンセット式【自動復元】
露出倍率補正	補正マーク2×のとき：Nのときの2倍の露出量となる 補正マークNのとき：【F2.8、2秒】~【F13、1/600秒】 補正マーク½×のとき：Nのときの½倍の露出量となる	フィルム枚数計	順算式【自動復元】
使用電源	1.4V水銀電池2個使用【JIS：HM-N型】	フィルム装填	RL式スプール【ラビッドローディング式】
		大きさ・重量	110×70×52ミリ・410グラム

フィルムの出し入れは直射日光を避けて行なって下さい。

フィルムの入れ方

使用するフィルムはバトロローネ入り35ミリフィルムです。



- ①裏フタ開閉ノブ⑬を引き上げてカメラ裏フタを開きます。
- ②バトロローネの軸の出ている方を下にしてバトロローネ室⑭に押し込みます。
- ③フィルムの先端を巻取りスプール⑲のミゾに差し込み、巻上げレバー⑲を巻上げてフィルムをパーフォレーションをスプロケット⑲の歯とかがみ合わせます。
- ④裏フタを閉じて2~3回空シャッターを切ります。フィルム枚数計⑲の矢印に1のまゝの赤点が出るまで空シャッターを切ってください。
- ⑤フィルムのゆるみを直します
巻戻しクランク⑲を矢印の方向に静かに回し、フィルムのゆるみを直します。反対の方向に回すとフィルムに支障が起きることがありますからご注意ください。
- ⑥フィルムを巻上げて枚数計に1を出しますこのとき巻戻しクランク⑲が反時計方向に回っています。

一般の撮影でセットすることは次の2操作だけです。



フィルム感度のセット

フィルムを入れ終わったら忘れずに使用するフィルムの感度をセットして下さい。これを忘れるとまちがった露出になってしまいます。フィルム感度をセットするときは、レンズ前面のASAフィルム感度セッティング回し、ASAフィルム感度表示窓窓に使用するフィルムの感度数字を合わせます。フィルム感度はフィルムの外箱や説明書に露光指数としてJIS、ASA、DINの記号と数字で示されていますが、センソレットの感度表示はASAの数字を合わせて下さい。一般に使用するSフィルム、ネガカラーフィルムの感度はASA 100です。

露出補正マークのセット

センソレットは撮影の状況によって露出基準を3段階に変えることができますから、EEカメラでは良く写らない特殊な場合でも簡単に美しい写真を写すことができます。レンズ前面の露出補正つまみ回して露出補正表示窓窓にN、1/2X、2Xのいずれかを合わせるだけで最適な露出基準を選ぶことができます。



①順光線でのほとんどの撮影はNにセットします。



②開けた海辺や高原の風景を写すときは1/2Xにセットします。

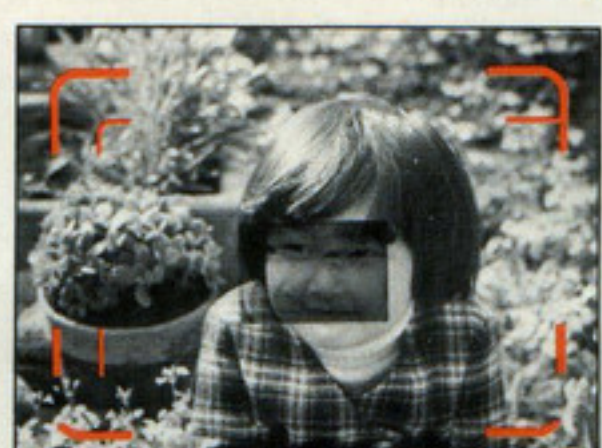
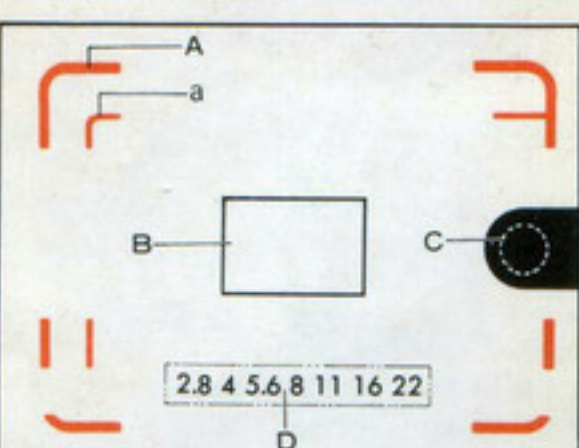


③逆光線や明るい背景の前の人物を写すときは2Xにセットします。

これで撮影の準備は完了です。撮影を始めて下さい。露出のことはすべてカメラが自動的に決めてくれます。

構図を決めてピントを合わせます

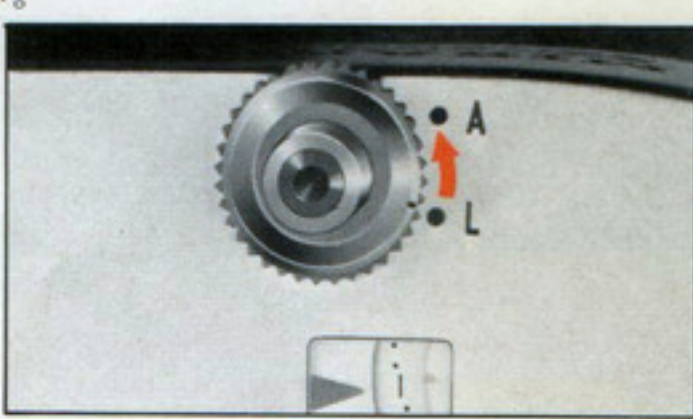
ファインダーをのぞくと図のようになっています。①フィルムに写る範囲は黄色の枠Aの内側です。撮影距離が1m以内のときはAの細い線の内側が撮影範囲になります。



②ピントはファインダー中心部のBで合わせます。ピントが合っていないときはこの部分の像が2重に見えますが、ピント調節リング回してピントを合わせると像のずれがなくなります。

シャッターボタンを押します

シャッターロックボタンCの指標をAに合わせて下さい。



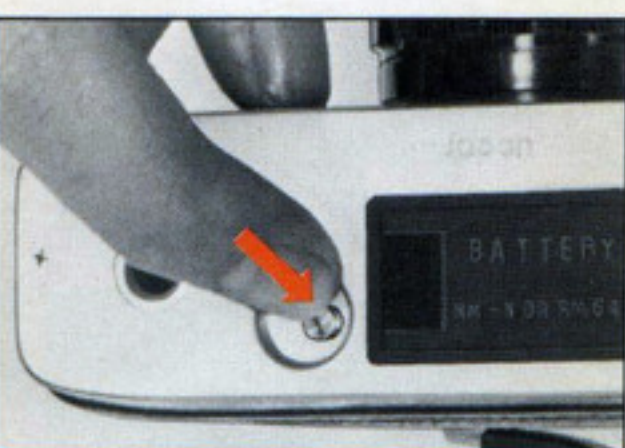
- ①シャッターボタンを少し押し下げたときに黄色のランプCが点灯すれば、電子シャッターが正常に作動します。点灯しないときは電池の消耗を示し、シャッターは正常に作動しません。
- ②高速シャッターが作動するときは、黄色ランプはすぐに消えますが、ランプが消えないときは

1/60秒以下のスローシャッターが作動することを示します。この場合には三脚を使用するか、フラッシュ撮影を行なって下さい。

- ③スローシャッターが作動する場合は、黄色ランプが消えるまでシャッターボタンを押し続けて下さい。ランプが点灯している間はシャッターが開いています。
- ④2秒以上の長時間露出を行なう場合の露出の精度は測定範囲外となるため保証されません。また長時間露出を繰り返すと電池の消耗が早くなります。
- ⑤シャッターを切るときは、人差指の腹で静かにボタンを押し下げますが、シャッター作動後はボタンが元に戻るときに、次のシャッターのセットを行ないますから、素早く指を放すようにして下さい。

フィルムの巻戻し

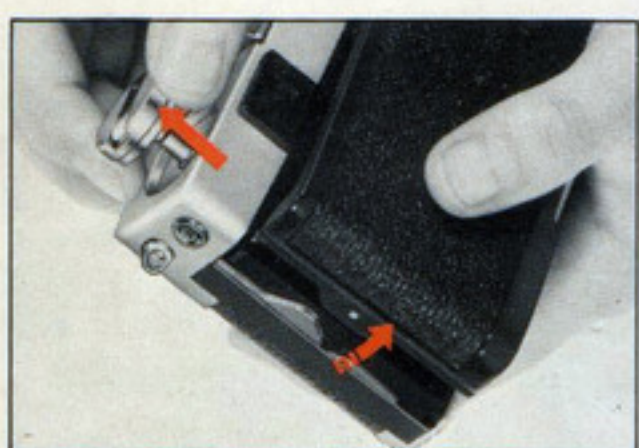
カメラに入れたフィルムの撮影がすべて終わると、フィルムの巻上げができなくなり、フィルム枚数計Dの数字がフィルムの撮影枚数(12、20、36)になります。撮影が終わったら撮影済みのフィルムをバトロネの中に巻戻して下さい。



①カメラの底にあるフィルム巻戻しボタンEを押します。



②フィルム巻戻しクランクFを起し、矢印の方向に回すとフィルムはバトロネの中に巻戻されます。



③クランクの手ごたえが急に軽くなったら巻戻し完了です。裏ボタン開閉ノブGを引き上げて裏ボタンを開き、バトロネを取り出します。

【ご注意】

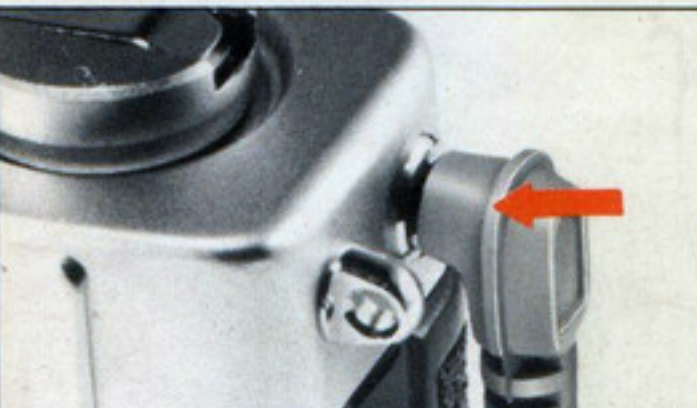
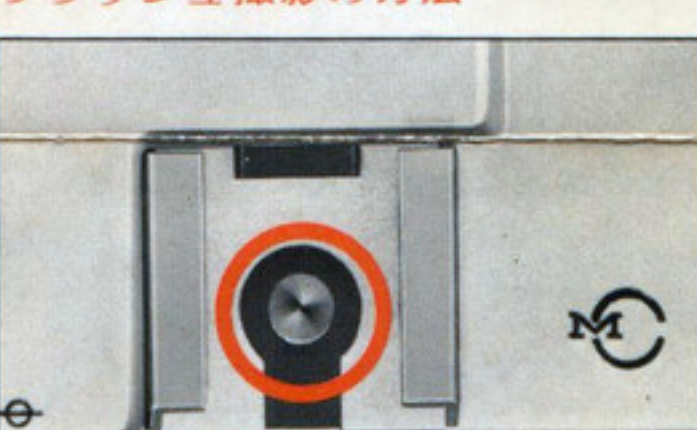
- ①フィルムが終りになって巻上げレバーHが途中で止ったときは、無理に巻上げずに撮影を中止してフィルムを巻戻して下さい。
- ②カメラの裏ボタンを開くとバトロネがとび出してくることがありますから、写真のように反対

の手の親指を裏ボタンに当ててノブGを引き上げて下さい。

③取り出したフィルムはできるだけ早くフィルムケースに入れて下さい。

オートフラッシュとフラッシュマチック機構によりフラッシュ撮影が自動的に行なえます

フラッシュ撮影の方法



室内や暗い場所で撮影する場合はシャッター速度が1/60秒以下のスローシャッターになることがあります。このような場合にはストロボなどを使ってフラッシュ撮影をしてください。

センソレットには発光器をアクセサリシューにセットすれば、EE撮影とフラッシュ撮影が自動的に切替えられ、フラッシュ撮影がよいときにはフラッシュが発光し、EE撮影でよいときは発光しないでEE撮影ができるオートフラッシュ機構と、ガイドナンバーをセットしておけば自動的に適正露出で撮影できるフラッシュマチック機構が内蔵されていますから、EE撮影と同じようにシャッターを切るだけでフラッシュ撮影が簡単に行なえます。フラッシュ撮影には専用のミランダEF-1又はソリゴールMK-3ストロボが便利です。

- ①ストロボをアクセサリシューにセットします
フラッシュ直接点付のストロボはシューにセットするだけで接点が直結されますが、その他のストロボを使用する場合はシンクロコードをフラッシュシューミナルに接続してください。また、ストロボをシューにセットせずにブラケットなどを使用するときは、付属のプラスチックカバーをアクセサリシューに必ず差し込んでください。
- ②ガイドナンバーをセットします
使用するストロボのガイドナンバー数値をカメラのガイドナンバーの指標に合わせます。【フィートの場合は左、メートルは右の指標】専用ストロボのガイドナンバーは20【メートル】です。
- ③露出はすべてカメラが計算します
ストロボをカメラにセットするとファインダー内に絞り目盛Dが表われ、距離計に連動した指針が被写体までの距離に応じた適正絞りを指示し、シャッターを押すと適正露出で撮影されます。使用ストロボのガイドナンバーによっては絞り目盛の右または左側に赤マークが表われますが、指針がこの中にくると露出がオーバー【右側】またはアンダー【左側】になります。
- ④シャッターボタンを押します
ストロボの発光準備が完了したらファインダーをのぞいてシャッターボタンを少し押し下げます。このときにファインダー内の黄色ランプCが赤色に変ればストロボが発光しフラッシュ撮影が行なわれます。赤色ランプが点灯しない場合はフラッシュ撮影の必要がない場合で、自動的にEE撮影となりストロボは発光しません。

カメラは精密機械です。取扱いには充分気をつけて下さい。

カメラの取扱いと保存の仕方

- ①落したり、衝撃を与えないようにして下さい。また高温多湿の場所に長く置かないで下さい。
- ②レンズなどの光学部分には指をふれないように注意して下さい。カメラのカバーの部分はときどきシリコンクロスなどの柔らかい布で拭いて

- 下さい。
- ③カメラをご使用にならない場合は、シャッターを切ってシャッターロックボタンをLに合わせおきます。また長期間ご使用にならない場合は水銀電池を取り出して置いて下さい。

便利で使いやすいアクセサリ

ミランダ EF-1ストロボ ソリゴールMK-3 ミランダコンパクトカメラにマッチした小型軽量のエレクトロニック・フラッシュ(ストロボ)で、ガイドナンバーは20 [ASA 100/m] と強力です。ダイレクトシュー付ですからアクセサリシュー【フラッシュ直接点付】に差し込むだけで接点が直結されます。
【性能】ガイドナンバー：20 [ASA 100/m] 閃光時間：1/6000秒 照射角

度：上下左右共60度 色温度：5600°K 電源：UM-3 × 2、AM-3 × 2 発光回数：8秒 発光回数：35回 [UM-3] 大きさ：62 × 67 × 33mm 重量：150g

スライド・プロジェクター コンパクトで使いやすいカラー・スライドの投影器です。

フィルター センソレットには49ミリのねじ込み式フィルターを使います。フィルターの露出倍率はカメラが自動的に補正しますから考える必要はありません。

フィルターの種類と性質

白	2 B	有害な紫外線をカットして鮮明な像が得られます。レンズの保護用としても常用できます。
黒	K 2	明暗の描写を強調し、立体感を出します。海とか山の風景に最適です。
用	1 A	2 Bと同じで紫外線をカットし、画調が青っぽくなるのを防ぎます。レンズ保護用にも使えます。
カ	81 C	曇天や雨天での撮影に用い、画調が青味がかかるのを防ぎます。
ラ	82 C	朝や夕方などの赤色光の多い時間帯での撮影に使用すると、画調が黄っぽくなるのを防ぎます。
用	PL	ガラスや水面などの乱反射を消す効果がありますから、ショーウィンドウの中や、水中の魚などがはっきり写ります。
共	ND (4X)	光の量を4に減少させますから、雪山や夏の海などの光線の強い場所での撮影に使います。

MIRANDA SENSORET



ミランダカメラ株式会社
サービスセンター
東京都港区六本木7-15-14 〒106
大阪市南区塩町通り2丁目18 〒542